

諏訪地方の 経済概況 速報

2016.03

2016年2月末調査／2016年3月28日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

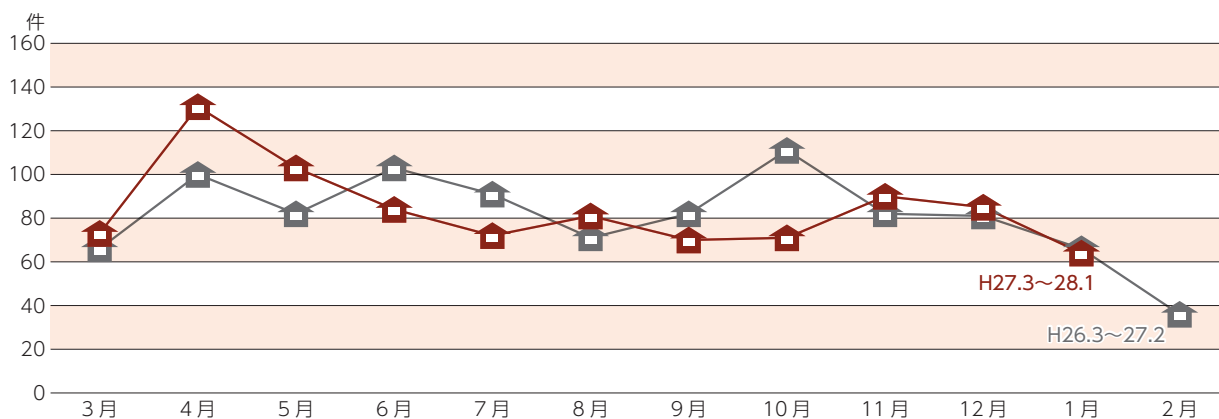
諏訪地方の概況

2月の日本経済は、原油安に伴う産油国の財政悪化、中国と米国の景気の先行き懸念、欧州の信用不安、マイナス金利などが複合的に重なり、円高、株安傾向となった。諏訪地方では、製造業は総体的に企業間格差があり、外部要因による先行き不透明感がある。非製造業は高温、少雪だった2月の天候が、各方面に影響を及ぼした。県内景気に厳しさがある中で、諏訪地方では御柱祭が近づいてきたことで、特に商業や観光で需要が出始め、期待感も大きい。一方、公共工事は減少傾向が続いている。諏訪地方の有効求人倍率は、全県や全国平均を下回ったものの、高水準で推移している。

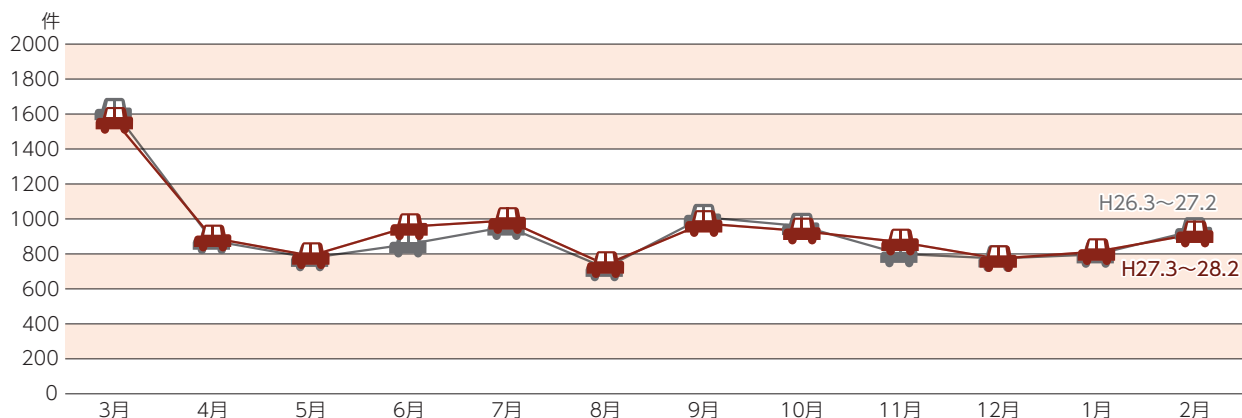
(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【1月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.27倍	0.18ポイント	
手形交換高【2月】(諏訪手形交換所扱)	枚 数	6,409枚	877枚	
	金 額	8,221百万円	1,834百万円	
	うち不渡り発生状況	枚 数	3枚	3枚
		金 額	450千円	450千円
電力使用量【2月】(中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	72,354MWh	△5.4%	
	高圧電力計	100,330MWh	△2.1%	
	合 計	172,684MWh	△3.5%	
車庫証明取扱件数【2月】(諏訪地方合計)		914件	△2.1%	
新設住宅着工戸数【H27年4月～28年1月】(諏訪管内)		851戸	△2.1%	

■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



■車庫証明件数の推移



2月の諏訪地方は、足元では設備関連などで好調な企業が見られるが、経済産業省発表の1～3月期の生産予測指数が前期比低下し、米中景気への懸念から大手企業に設備投資を先送りする動きがあることなどで、生産の先行きに対する不安感も見られる。自動車部品関連など輸送用機械は、総体的に低調のまま推移している。金属製品加工は、取引先の状況によって受注に波がある状況は続いているが、先行きの受注に明るさを感じる企業もある。一般機械は、省力化機械関連などで好調な企業があり、世界経済の動向が注視されている。電気機械は設備関連で好調な企業があるものの、取引先の状況によって受注状況はまちまちで、今後の情勢変化に期待がかかる。精密機械は、これまで好調に推移していた企業にやや一服感も見られるが、監視カメラや車載カメラ、研究機関向けレーザー用レンズなどで、技術力のある企業の受注は堅調に推移している。

<p>金属製品 プレス、メッキ、熱処理など</p>	<p>主力の取引先以外からの受注が低調で、総体的に受注が減少するなど、安定的な受注確保は難しく、波が激しい状況は続くが、在庫調整で低迷していた主力取引先からの受注が回復したり、春以降の受注が確保されている企業もあり、増加基調の企業が増えている。設備関連の受注は比較的堅調に推移している。</p>
<p>一般機械 工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など</p>	<p>大手企業は設備投資が旺盛で、新機種の上昇に対応する設備関連の動きも出ている。3月納入品が多く、忙しい企業もある。ロボット関連は引き続き好調。増加基調の流れに変化はなく、受注残高も高止まりで、現場も忙しい状態の企業もあるが、一方で主要取引先からの受注が低調のまま推移し、回復の動きが見えにくい企業もある。中国向け製品の動きが鈍くなっていることから、中国経済の減速と資源安によるアジア企業の財務悪化の影響を懸念し、先行きに対する不安感も見られる。</p>
<p>電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など</p>	<p>携帯電話会社が基地局の機能アップの設備投資に取り組み、基地局向けなどの光通信関連、LED関連、電源関連などが好調となっている。自動車関連は、堅調だった部品に一服感がある。主力取引先の在庫調整は一巡したとする企業と、例年通り生産調整の時期として4月以降の増産に期待する企業がある。</p>
<p>輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など</p>	<p>自動車関連はメーカーや車種によって繁閑がある。国内の自動車販売が低迷する中でも取扱い部品によっては、堅調な企業がある。中国の重機需要は昨年夏ごろから止まっていたが、2月には底を打ったという感触を持つ企業がある。船外機は中国が自国で製造しているため、他国メーカーの割合が低く、中国経済減速の影響は受けていない。総体的には、主力取引先からの受注が減少し、その他で穴埋めする企業がある一方で、取引先が好調で輸出が落ち込んでいないことから、好調だった昨年を上回る売上の企業もあり、濃淡が分かれている。</p>
<p>精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など</p>	<p>レンズ業界全体の受注量の変動は少ないが、医療用機器、研究機関向け、監視カメラ、車載器用の高難度加工レンズの引き合いは多い。これまで好調に推移していた一部企業からの受注に一服感があるが、春ごろには回復する見込み。技術力がある企業に受注が集中する傾向が続いている。ただ、コスト競争が激しく、先行きが読みにくくなっている。</p>
<p>製造業全般</p>	<p>衣料品製造は暖冬の影響で追加受注が減少した。食品では味噌の需要も減少傾向だった。寒天は一部で健康食品番組に取り上げられた影響で繁忙な企業があった。今後、御柱祭での需要も見込まれ、売上の増加が予想される。</p>

商業

「暖冬の中で御柱祭への動き出始め」

諏訪地方の2月の天候は、日最高気温17.5度と長野地方気象台の観測史上2番目の高さを記録した日があるなど、高温傾向だった。高温で雪が少ない今冬は、商業施設への客足が伸びた半面、冬物衣料や除雪用品は伸び悩んだ。御柱祭関連では、飲食店で宴会需要が出始め、小売店では御柱祭特別コーナー設置などの準備が進む半面、春のブライダル関連は低調となっている。自動車販売（軽を除く）は、諏訪地方の2月の車庫証明件数が914件で、前年同月比20件減少（△2.1%）した。

衣料	就活や卒業式、入学式に向けたスーツ類には動きがあったが、暖冬の影響で冬物衣料やふとん、毛布などは伸び悩んだ。
食料品	鍋やおでんなどの食材が動き、バレンタイン商戦も好調に推移した。鮮魚は天然や近海物が品薄傾向で、野菜は例年並みの価格だった。御柱祭用のオールドブルなどの注文が出始めている。
家電製品	ネット販売の影響で、店頭は苦戦が続いている。暖冬で暖房機器全般の売れ行きが悪かった。
自動車	県内の2月の新車新規登録台数は、登録車が4ヶ月ぶりに減少し、軽自動車は14ヶ月連続で減少した。全体では前年同月比801台減少（△7.8%）の9,514台で、6ヶ月連続で減少した。
ホームセンター	衣装ケースや寝具などの新生活用品には動きがあったが、防寒用品や除雪用品は気温の影響を受けた。

観光・サービス業

「スキー場が苦戦、海外客は順調」

2月の諏訪地方は暖冬とともに、週末の天候が雨だった週が2週あった。スキー場では客足に影響があり、リフト収入が前年より減少傾向となった。雪解けが早いため、ゲレンデのコンディションが心配され、3月に向けてスノーマシンの稼働状況が集客のポイントとなっている。一方、上諏訪温泉は、雪が少なかったことなどで宿泊客が増加した施設が多い。海外からの旅行客も増加傾向で推移しており、今後、外国人に人気の立山黒部アルペンルートと御柱祭で、さらに増加が見込まれる。ただ、大河ドラマ効果はあまり期待できないという見方がある。

上諏訪温泉	降雪が少なく天候に恵まれたことから、宿泊人数は総体で増加した。前年同月比では90%～150%台となっている。構成人員別では2～4人の宿泊客が約3割。方面別では関東と東海が前年を上回っている。インバウンドは中華圏の春節の影響もあって前年同月比で増加。海外からの旅行客は依然、好調を維持している。
蓼科・白樺湖・車山等	暖冬や悪天候の影響でスキー場が苦戦する中で、山歩き人口の増加を図った初心者向けの講習を開いたり、施設をリニューアルする取り組みが見られた。合宿と飲食関係が比較的好調で、スキー場の落ち込みをカバーした施設もある。団体客より一般客が前年を下回った施設もあった。蓼科湖の木製遊歩道が完成し、安全面などで期待されている。
下諏訪温泉	降雪は少なかったが、日帰りの利用が低調だった。御柱祭で観光客の増加が予想されるが、山出しや里引きの予約で、まだ最終日に空きがある施設も見られる。
諏訪大社	上社・下社合わせた2月の参拝者数は約39千人。前年同月比では約1万人の増加（35.9%）となった。

建設業

「手持ち工事が減少傾向」

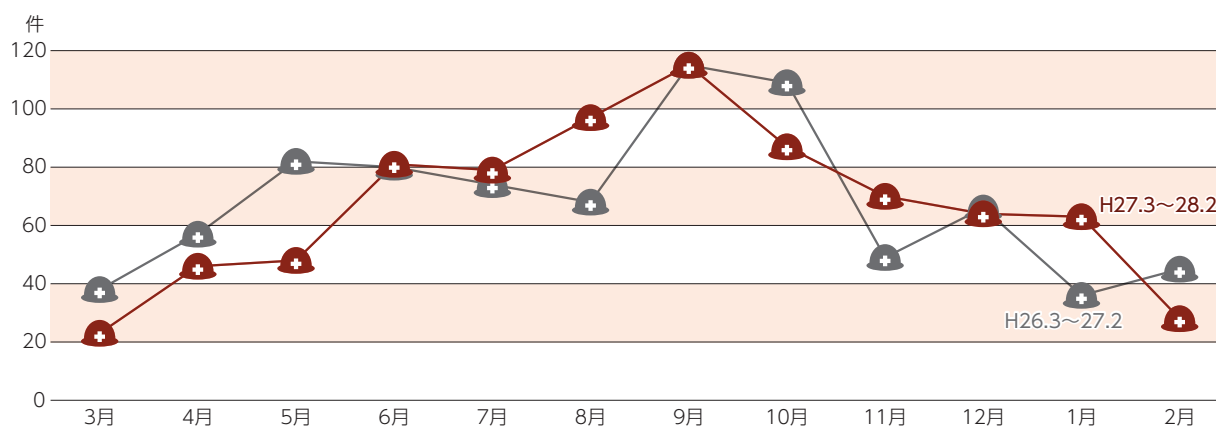
2月の市町村からの受注工事は、合計28件、120百万円となった。前年同月に比べ、件数は17件、契約金額は667百万円それぞれ減少した。国県関係の平成27年4月～平成28年2月の累計公共工事（地元業者受注分）も前年同期累計比で件数、契約金額とも減少している。降雪が少なく、冬場の工事が進んだが、次年度以降に持ち越せる手持ち工事が、前年同期を下回る水準となっている企業が増加している。民間工事は、諏訪地方の1月の新設住宅着工戸数が64戸で、前年同月比2戸減少（△3.0%）した。

公共工事	<p>2月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は諏訪建設事務所2件のみで、契約金額は41百万円だった。平成27年4月～平成28年2月の累計は129件、3,543百万円となり、前年同期の累計比で件数は3件減少し、契約金額も1,666百万円減少（△32.0%）した。</p> <p>市町村からの2月の受注工事は、前年同月に上諏訪中学校屋内運動場整備事業があった反動もあり、建築工事5件25百万円、土木工事及び下水道工事17件64百万円、その他工事6件31百万円となった。</p>
民間工事	<p>諏訪地方の1月の新設住宅着工戸数は、前年同月比の利用関係別で「持家」は4戸増加の42戸、「貸家」は9戸減少の17戸、「分譲」は3戸増加の5戸、「給与」は同数の0戸となった。平成27年4月～平成28年1月の累計は851戸で、前年同期比18戸減少（△2.1%）となっている。</p> <p>長野県内の1月の新設住宅着工戸数は665戸で、前年同月比13.5%減少した。前年同月比の利用関係別では、「持家」が347戸で8.7%減少、「貸家」は249戸で0.4%増加、「給与」は0戸で100%減少、「分譲」は69戸で3.0%増加した。</p>

■諏訪地方の1月の新設住宅着工状況

区分 市郡名	合計 戸数	前 年	利 用 関 係 別								構 造 別			
			持家	前年	貸家	前年	給与	前年	分譲	前年	木造	前年	非木造	前年
岡谷市	27	6	10	6	16	0	0	0	1	0	24	5	3	1
諏訪市	17	35	13	8	1	26	0	0	3	1	15	25	2	10
茅野市	13	10	12	9	0	0	0	0	1	1	12	9	1	1
諏訪郡	7	15	7	15	0	0	0	0	0	0	6	15	1	0
合 計	64	66	42	38	17	26	0	0	5	2	57	54	7	12

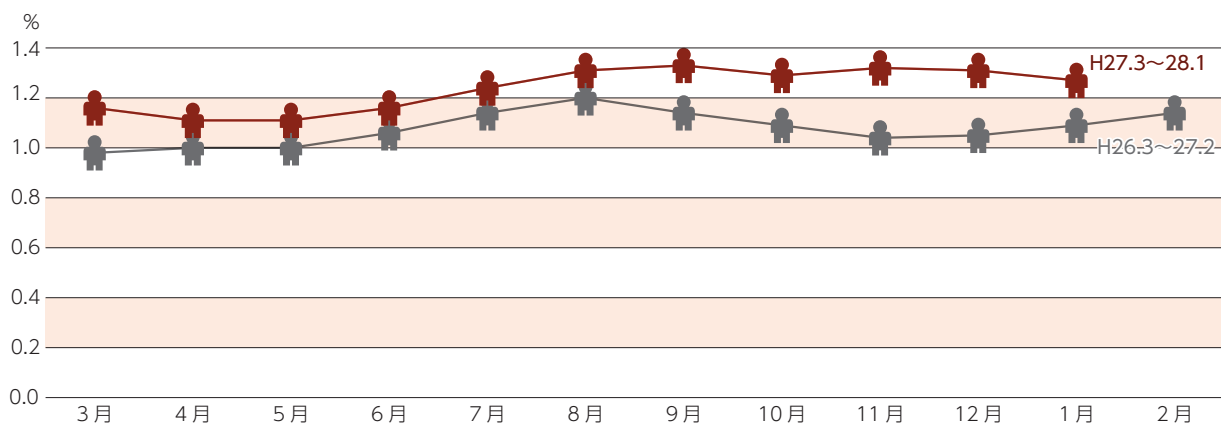
■公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



諏訪地方の1月の有効求人倍率は、前年同月を0.18ポイント上回り、前月を0.04ポイント下回る1.27倍となった。1倍台の維持は22ヶ月連続で、前年同月を上回るのは32ヶ月連続となっている。依然、「労働力確保」が経営上の課題となっている企業が多い。派遣から直接雇用に切り替える事業所もある。全国平均は前月を0.01ポイント上回る1.28倍で24年1ヶ月ぶりの高水準となった。長野県平均は前月を0.05ポイント上回る1.33倍で、1.3倍台の高水準は22年4ヶ月ぶり。全県的には、大河ドラマ効果や外国人観光客の増加が、宿泊業・飲食サービス業の新規求人数を伸ばしている。

諏訪地方の新規求人(全数)は1,654人で、前年同月比21人減少(△1.3%)した。要因別では「欠員補充」「創業・新分野展開」が増加し、「継続する人員不足」「業務量増大」は減少した。業種別の前年同月比の新規求人数は、「生活関連サービス・娯楽業」「医療・福祉業」で増加し、「建設業」で減少した。新規求職者数は869人で、前年同月比65人減少(△7.0%)した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は57人で、前年同月比15人増加し、前月比では2人増加した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- マイナス金利導入もよいが、抜本的に景気を循環させる対策が急務では(金属製品製造業)。
- 日系企業の中国工場は人件費の増加で、機械化、自動化が進めば、関連する受注も期待できるが、国内の仕事はさらに減少する懸念がある(一般機械製造業)。
- 新入社員の人数は確保できたが、技術系の人材は思うような採用に至らなかった(一般機械製造業)。
- 台湾企業のシャープ買収が決定し、今後生産が中国で行われるようになると、国内の液晶関連はさらに厳しくなるのでは(電気機械製造業)。
- 海外とのコスト競争で受注が大きく左右され、良い方にも悪い方にも転ぶ可能性があり、先行きが読めない(精密機械製造業)。
- 天候で客足が大きく変わり、売上に影響するが、今年は雪が少なくありがたい(飲食店)。
- ガソリンや灯油の値下がり、浮いたお金で外食を楽しむ傾向はある(飲食店)。
- 景気の影響か、初回来店時の成約率が低下し、購買動向は例年より低調(自動車販売業)。
- 御柱祭終了までは人心が落ち着かず、5月までの工事受注は低調に推移する(建設業)。
- 道路改修や下水道工事などの小口化が顕著(建設業)。
- 雪見目的の宿泊者が増加傾向で、雪の中での露天風呂に魅力を感じる宿泊客が多いが、今シーズンは雪不足の影響で常連客が減少している(旅館業)。

長野県の金融経済動向

(2016年3月4日) 日本銀行 松本支店

— 2015年の公表日の前営業日時点で利用可能であった情報をもとに取りまとめ。

長野県経済は、生産に新興国経済の減速の影響などがみられるものの、緩やかに回復している。

最終需要の動向をみると、公共投資は高水準ながら緩やかな減少傾向となっている一方、住宅投資は底堅く推移している。この間、設備投資は緩やかに増加している。また、個人消費は一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

以上のような最終需要のもとで、生産は新興国経済の減速の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得は、着実な改善が続いている。

生産

半導体関連・電子部品等では、スマートフォン向けの増勢一服のほか、生産用機械向けで中国など新興国経済減速の影響がみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。

自動車関連では、北米向け等の海外需要が堅調なものの、国内向けで一部に弱さがみられることから、生産は横ばい圏内の動きとなっている。

機械・同関連部品等では、工作機械は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復しているものの、中国など新興国経済減速の影響がみられる。バルブも、プラント向け需要が堅調なことから、生産は高めの水準で推移しているものの、新興国経済減速の影響がみられる。計器も、生産は高めの水準で推移しているものの、建設機械向けを中心に新興国経済減速の影響がみられる。成形機は、内外需要の増加により、生産は緩やかに回復している。

飲料は、弱含んでいる。

個人消費

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高(当店調べ<店舗調整前>)をみると、1月は一部に弱さがみられるものの、消費者マインドの持ち直しを背景に緩やかに回復しつつある。

家電販売は、1月は前年を上回った。

自動車販売は、2月は前年を下回った。

公共・住宅投資

公共工事請負額をみると、1月は独立行政法人等の発注分が増加したものの、国、県、市町村の発注分が減少したことから、全体では前年を下回った。

住宅着工戸数をみると、1月は分譲、貸家が増加したものの、持家が減少したことから、全体では前年を下回った。

雇用・所得

有効求人倍率をみると、1月は新規求人数が増加していることから、回復している。

所得面では、12月は一人当り名目賃金および常用雇用者数が前年を上回ったことから、雇用者所得は前年を上回った。

物価

消費者物価指数(除く生鮮食品)をみると、1月は光熱・水道や交通・通信が下落したことを主因に、前年を下回った。



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>